

1997
2014

5 / 1 ・ 15

府職の友

発行所/大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)0351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人/有田 洋明 編集人/樋口 浩之
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

あなたも 府職労へ

1人はみんなのために
みんなは1人のために

安倍暴走政治ストップ! くらしと雇用をまもる政治に転換しよう



「正社員ゼロ」「生涯ハケン」の社会めざす 派遣法改悪を阻止しよう

戦争できる国づくりを許さず 働くルールの実現を

府労組連は5月29日、第26回定期大会を開催し、向こう1年間のたたかう運動方針を決定します。

いま、安倍政権は、昨年末に国民の猛反発を無視して強行した特定秘密保護法に続き、集団的自衛権の解釈変更で「海外で戦争できる国づくり」に突き進んでいます。この4月からは消費税増税を8%へ引き上げ、医療・介護・年金など社会保障の大改悪の動きなど新たな国民負担も狙っています。こうした安倍政権のめざす憲法改悪とくらし破壊を許さない運動を大きく広げることが重要です。

国会では、企業が派遣を「常用」可能にする労働者派遣法改悪案の提出が狙われています。非正規労働者にとどめて、正社員になる道が閉ざされ、不安定雇用のまま「生涯ハケン」に据え置かれることとなります。大阪府の職場でも派遣や委託労働者が増大しているものと、労働法制の大改悪に真っ向から反対し、賃金引き上げと安定した雇用の拡大を実現するため、すべての労働者と団結して運動をすすめることが重要です。

住民のくらしを守る大阪府の 役割を發揮できる府政へ

大阪府では、依然として完全失業率や企業倒産件数、生活保護受給率などあらゆる指標で全国の最悪レベルとなっており、「格差と貧困」がいつそう広がっています。

いま、大阪府がやるべきことは、橋下維新の会がすすめる「大阪都構想」の実現ではなく、生活危機と将来不安が広がっている府民のくらしを守り、災害に

・地域からの運動を構築しなければなりません。当面する夏季闘争では、すべての労働者の賃金底上げと雇用の拡大なしに景気回復の道はないことを明らかにし、賃金カット中止や夏季一時金引上げ、相対評価の撤回などの府労組連要求の実現をめざすと同時に、労働者派遣法の改悪を許さず、全国最低賃金引き上げ、はたらくルールの確立めざし職場から運動を展開します。すべての職員が安心して、住民の願いに応える職務が遂行できる賃金・労働条件の確立めざし、夏季要求の実現に向けてとりくみましょう。

5・1 第85回メーデー開催

5月1日、第85回メーデーが開催されました。一時的に雨模様になったものの心地よい晴天の中、大阪府内15地域で1万5千人が参加し、府職労からは110人が参加しました。

扇町公園で行われた大阪中央メーデーには、創意工夫を凝らしたデコレーションやプラカードとともに、6千人が参加しました。府職労は「安倍政権の暴走政治許さんぞう!」をコンセプトに、ダンボール・包装紙・新聞紙を用いて作製したメッセージ性が強く話題性に富んだデコレーションやプラカードが数多く並びました。府職労のデコレーションがコンテストで見事に輝きました。集会は、来賓挨拶やメッセージ紹介、各労組・団体からの決意表明があり、メーデースローガンのオリジナルシャツを着て、元気に楽しく参加し、その後3コースに分かれてデモ行進しました。



デモ行進では、ゾウを先頭に「全ての労働者の大幅賃上げを」「最低賃金千円以上を実現しよう」「憲法を暮らしにいかそう」などのシユプレヒコールを行い、元気に進みました。

遊歩道

中学生と
き、英語の教科書に「MAY DAY」の記述があり、花飾りの車に女性が乗り、その周辺を人々が手にいろいろなものを持ち、パレードをしている挿絵があったのをなぜか覚えている▼メーデーは本来、欧州で夏の訪れを祝う「五月祭」だったのが、この日は労使双方が休戦し、ともに祝う慣習だったことから、近代に入り現在の「労働者の祭典」となったとのこと▼統一した権利要求と世界の労働者と連帯する日である。メーデーには、大阪府に入職した年から参加しているが、当時は大阪城公園で集えし、難波までデモをした。今は地域メーデーに分かれて中央メーデーの人数は少なくなったが、当時は参加者も多く、支部ごとにデコレーションを作っていた記憶がある▼今年も、安倍内閣が押し進めようとする憲法改悪や労働法制改悪に反対するプラカードが多く見られた。府職労は「戦争する国あかんぞう」と象のデコレーションを作製し、見事一位を獲得した。歓声に包まれた一日だった。今は若い組合員の参加も少なくなっているが、年に一回の労働者の祭典、多くの組合員の参加で盛り上げたいものである (も)